



創の縫合にチャレンジ (親子ふれあい病院体験)

CONTENTS

巻頭特集 親子ふれあい病院体験を開催しました

- 主役はママです～コロナ禍でもママに寄り添った分娩を目指して～ P.4 ～
- 災害への備え - 当院の取組を紹介します - P.6 ～
- 密着取材! 医療ソーシャルワーカーの1日 P.8
- 沖縄県への広域的支援活動報告 P.9
- 地域医療連携だより P.10 ～
- INFORMATION 裏表紙



～ 受診される患者さまの権利 ～

1. 個人の人権を尊重した良質な医療を受ける権利
2. プライバシーが保護される権利
3. 納得のいく説明と情報提供を受ける権利
4. 自らの意思で検査・治療法などを選択、あるいは拒否する権利
5. セカンドオピニオンを得る権利

3年ぶり
開催

深谷赤十字病院

親子ふれあい病院体験



「見て・触れて・体験する」病院見学会

令和4年10月22日（土）、「深谷赤十字病院 親子ふれあい病院体験」を開催しました。コロナ禍のため中止となっていたもので、3年ぶりの開催です。

このイベントは、「病院が地域に理解され、開かれた存在で在りたい」「将来、地域や社会を支える子ども達に、医療の道を志してもらいたい」という想いで、令和元年から開催しています。対象は小学校高学年とその保護者で、事前に申し込んだ参加者56名・親子26組が参加して下さいました。

「医療体験」では手術の際に行う「結紮」（創の縫合）を体験し、手術室の見学や、超音波検査装置で、実際に腹部のエコー画像を見ました。

「看護体験」では、新生児沐浴トレーニング用の人形を使って、お風呂に入れておむつ替えを体験。聴診器を使って親子で心音を聴いたり、蘇生トレーニング用の機械を使って胸骨圧迫とAED（自動体外式除細動器）の操作を行ってみました。



挨拶を行う伊藤院長

「災害学習」では、当院の屋上にあるヘリポートに上がりました。地元参加者も多く、見慣れた深谷の景色も屋上からだとは格別だったようです。また、救急車や医療救護用のテントも見学し、災害時における赤十字病院の役割をお話ししました。

その他、昼食として非常食の調理と体験試食を実施。火を使わず加温できるように工夫された器具を使って完成した温かい食事に感心していました。管理栄養士からは、栄養バランスや糖分の摂り過ぎ注意などの講話をクイズ形式で行いました。

会場には子ども用の白衣等を用意し、医療者になった気分でご記念撮影を行えるコーナーを設置。保護者の方々がスマホを手に医療者に扮したお子さんの写真を撮られていました。

コロナの流行により、病院は外来診療・入院や面会の制限等の措置を取らざるを得ず、患者さんへご迷惑をお掛けしています。病院の外でも子供たちが学習機会を十分に得られないなど、様々な体験が制限されていることと思います。短い期間ではありますが、流行状況が落ち着いている時期は、感染対策を十分にとりながら、できる活動を少しずつ取り組んでいくことも重要です。コロナにより暫く病院には暗い雰囲気漂っていましたが、久しぶりに子どもたちの明るい笑顔が見られ、職員にとっても楽しい一日となりました。

医療体験



伊藤院長の結紮技



皮膚の模型を縫い合わせる



おなかの中をエコーで見る

看護体験



お母さんの心音が聴こえるよ



やさしくお湯をかけてね



胸の真ん中を強く押して

災害学習



ヘリポートからお家が見えるかな？



救護用のテントを見学



救急車のサイレンに興味津々？

その他体験・学習



管理栄養士の「食」の講話



非常食の調理体験



看護師に扮してパチリ！

親子ふれあい病院体験 参加者感想

病院は、病気を治すところだけと、どんなことをしているのかな、怖くないかなと思いつながり参加しました。

最初に、赤ちゃんのまくよくをしました。まくよくは赤ちゃんがお風呂に入るのを助けることで、やさしくお湯をかけたりしました。思ったより赤ちゃんって重いんだなと思いました。

次に、シヤミーちゃんという本格的な人形で心ざつマッサージをしました。楽しかったけど、救急車が到着するまでやるのは大変だなと思いました。

次に、病院の屋上のヘリポートに行きました。高くて、少し怖かったけど、お家の近くも見れて、病院はとも大きいのだと感じました。深谷赤十字病院は地域の人たちの手術や、災害の時は現場に行ったり、設備を用意したりしていると聞きました。また、救急車やレントも見学し、実際に救急車に乗ることもできました。

特に、私が一番楽しかったことは、手術室へ行ったことです。なぜなら、いつもドラマで見ていた道具や機械があり、かつこいいなと思っただからです。そこでは、人の肌をぬぐ体験をしました。でも、本当の人をぬぐのではなく、スポンジみたいなやわらかい物に穴が開いていて、そこを糸でしばりました。糸はふつうにしばるのではなく、「外科しばり」といってわつかに2回糸を通しました。ふつうにしばるよりも力が強くなり、びっくりしました。そして次に、糸が完治したので、糸を切りホチキスのような物で糸をとめました。また、エコーという機械で体を見ました。心臓がうつっている時に動いていてちよつと怖いなと思いました。が、色々見ているうちに怖くなくなりました。

お昼は、災害時に食べる食事を食べました。アルファ米というご飯を食べましたが意外とおいしかったです。

今はコロナが流行っている中ですが、親子ふれあい病院体験にマスクをしながら参加してもとても楽しかったです。また来年も参加したいと思ってきました。

(小学五年生 女子児童)

レポート コロナ禍における産科・助産師奮闘の記録

「主役はママです」

「コロナ禍でも妊産婦に寄り添った分娩を目指して」

当院産婦人科病棟では、主体的な妊娠・出産を応援しています。ママの気持ちに寄り添いながら、ママ自身の力を最大限に発揮できるよう、サポートしています。コロナ禍でも、その思いは変わりません。そんな産婦人科病棟でのコロナ禍の取り組みについてご紹介いたします。

まず満期でコロナ陽性になった場合です。

基本的には帝王切開となります。これは感染拡大を防ぐため、安全にお産をするため、そして赤ちゃんにコロナがうつらないようにするためです。

しかし、帝王切開の準備や片付けにも時間がかかり、多くのマンパワーも必要のため、たくさん医療資源を使用します。帝王切開の準備をする間もなく産まれる場合や、ママの状況により経腔分娩を選択する場合があります。そのため、経腔分娩にも対応できるように準備しています。

COVID-19経腔分娩の経緯・症例数



経膈分娩ですと、ママと赤ちゃんの安全の確保をするため、院内感染を防ぐため、いつも以上に気を配ります。その成果か、現在のところ院内感染は起こっていません。今後もママが安心してお産が出来るよう、スタッフ一同、日々努力していきます。

隔離解除になるまでは赤ちゃんには会えないので、その間は小児科と連携し、インスタグラムなどを用いて赤ちゃんの写真・動画をお送りしたり、様子をお伝えしたりしています。また母乳分泌の維持についてもサポートしています。かかりつけ妊婦さんがコロナ陽性になった場合、責任をもって対応していきますので安心ください。

感染予防

分娩第1期：N95マスク

分娩第1期後半～第2期：一体型小型電動ファン付き呼吸器防護具

個人防護具着用

2人で交代 1回30分




助産師による妊婦検診でしっかりサポートします

次に一般の妊産婦さんに対して、コロナ禍でママパパ教室なども十分に行けず、不安もあるかと思っています。当院の妊婦健診では、毎回必ず助産師と話すタイミングがあります。気になること、知りたいこと、ごっそお気軽ににご相談ください。集団ではなく、一人一人に合わせたお話をさせていただきます。

また待合室にて入院中の過ごし方や赤ちゃんの特徴などについての動画を流しています。インスタグラムにて病棟のご紹介もしておりますので、ぜひのぞぎに来てください。（よかったらフォローもお願いします♡）

入院中は、妊娠中からうかがっていた希望に沿ってケアを行います。しかし出産・育児は必ずしも希望通りにいかないことも。その時のママと赤ちゃんの状況をみて、一緒に考えていきましょう。

退院後は母乳相談や電話相談などでサポートいたします。母乳相談・電話相談は1ヶ月以内でしたら無料です。母乳育児はスムーズにいかない事もあり、退院後も悩んでいるママも多くいます。家に帰ってからの育児も相談出来るよう、体制を整えています。

コロナ禍でも、ほかの誰でもない、あなたに合わせた妊娠期の過ごし方、お産、育児をサポートいたします。一緒に頑張りましょう！

患者さんの声

「破水がきてコロナ陽性がわかり、「まさか」が続いて正直不安で仕方なかったです。そんな中でも無事自然分娩で出産できたことは、助産師さん、お医者さん、看護師さんのおかげだと思っています。」

赤ちゃんと10日間会えなかったのはつらかったです。赤ちゃんの写真も撮影してくれたのでどんな様子か見れて安心できました。陣痛くお産のときも助産師さんがずっと寄り添ってくれてとても心強かったです。」



ママとやっと会えました！





ACTION! 防災・減災

— 命のために今うごく —

災害への備え - 当院の取組 -

赤十字病院として、また地域災害拠点病院として、常に災害に対応できるよう赤十字救護班とDMATを組織し、日頃から訓練・研修に励んでいます。今回はその様子をご紹介します。



常備救護班 第2班班長 **寺脇 幹** (小児外科部長)

常備救護班

当院では、災害時に出勤する「常備救護班」を3チーム編成しています。そのうちの1チーム(医師1、看護師長1、看護師2、薬剤師1、主事2の計7名)が、深谷市総合防災訓練に参加しました。

この防災訓練は年1回仙元山公園で開かれていて今年は3年ぶりの開催でした。「関東平野北西部を震源とするM8クラスの地震が発生」という想定のもと、防災に関係する深谷市内のさまざまな機関(ライフラインや道路の維持管理、救命救急など)が一同に会し、各チームが連携しないとできないような訓練を行うというもので、親子連れなど多くの市民も見学に訪れます。

今回の我々の活動内容を簡単に紹介します。消防署の方々が設営してくださったエア型テント内に簡易ベッド3つを配置すると、間髪入れず傷病者がストレッチャーで次々と運ばれてきました。その内2人目の方が最重症であり、その人を的確に「要救急搬送」と判断して搬送依頼および搬出ができれば満点だったのですが、テントが想定していたものより狭かったことなどから、迅速さに欠けることとなり、ストレッチャーの動線を考えてベッドや備品の配置をどうすべきだったかが主な反省点となりました。

日常的な救急対応とは異なって混乱している場面で、いかに素早く情報を集め、それらをもとに的確に判断して行動に移すことができるか。これまでの訓練で、CSCATTT*と略称されている重要事項について分かったつもりになっていても実際の場面ではなかなかそうはいかないことを痛感しました。

市民の皆さまが安心して日常を過ごしていただけるよう、我々救護班は今後も訓練を重ねて参ります。

*CSCATTTとは…災害発生時にとるべき医療対応の原則。

- ① Command and Control (指揮・統制)
- ② Safety (安全確保)
- ③ Communication (情報収集・伝達)
- ④ Assessment (評価・判断)
- ⑤ Triage (トリアージ*)
- ⑥ Treatment (治療)
- ⑦ Transport (搬送)

深谷市総合防災訓練

9/3(土) @深谷ビッグタートル・仙元山公園



出勤の様子



使用する資材の荷下ろし



家屋の倒壊で負傷した重症患者の治療



軽症者の身元確認・治療



閉会式に参加する班員たち



参加した常備救護班員

*トリアージとは…

限られた人的・物的資源を最大限に活用して最大多数の患者に最善の医療を提供するため、傷病の緊急度や重症度を迅速に評価して救出・現場治療・搬送などの優先順位を決定すること。

●DMATとは・・・

災害発生直後（概ね48時間以内）から活動できる、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム。日本赤十字社ではなく厚生労働省や各都道府県が統括しています。

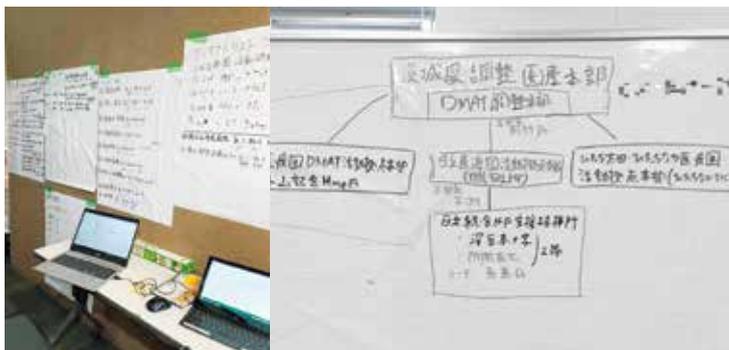
関東ブロックDMAT訓練

9/17(土)～18(日) @茨城県各地



▲日立総合病院支援活動の様子

▲日立総合病院に到着した当院の車両



▲病院支援指揮所の様子

▲日立医療圏活動拠点本部組織図

茨城県沖から房総半島沖を震源とする地震（マグニチュード8.4、最大震度6強）の発生を想定した関東ブロックDMAT訓練が、茨城県内において行われ、当院からは、日本DMAT隊員（医師1名・看護師2名・業務調整員2名）が参加しました。

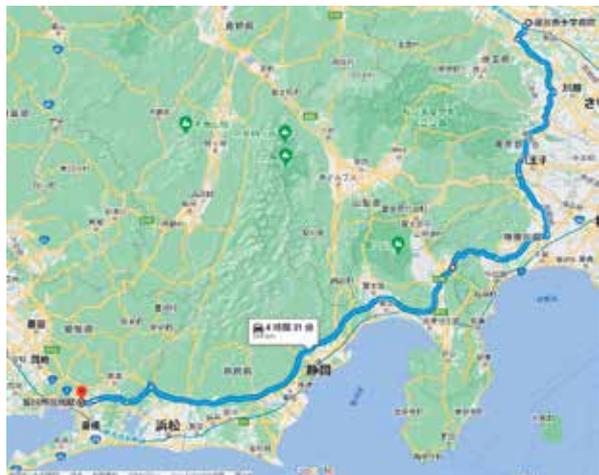
参集地点に到着した後、関東ブロック7都県のDMATとの連携の上、日立医療圏DMAT活動拠点本部の運営や、災害拠点病院（日立総合病院）における病院支援、EMIS* 代行入力、患者搬送などの訓練を行いました。

*EMISとは・・・

広域災害救急医療情報システム (Emergency Medical Information System) のこと。災害医療に関わる情報を一元化することで、適切かつ迅速な医療・救護活動が可能となる。医療機関の被災状況だけでなく、DMATの活動状況や搬送患者情報等を管理する機能を有している。

大規模地震時医療活動訓練

10/1(土) @静岡県各地



▲訓練当日の移動経路

10月1日、内閣府主催「大規模地震時医療活動訓練」に参加しました。今年度の訓練想定は、令和4年9月30日（金）午前11時00分に南海トラフ地震が発生。厚生労働省DMAT事務局より「広域災害救急医療情報システム（EMIS）」を使用して全都道府県、全DMAT指定医療機関、全国DMAT隊員に一斉通報がされ訓練開始となりました。

当院も、訓練参加するために、10月1日（土）に静岡県の東名高速道路足柄SA下り線の参集拠点を經由し、愛知県の東三河DMAT活動拠点本部（豊川市民病院内）に向けて出発。愛知県豊川市周辺での病院支援のスクリーニングを任務として実施してきました。

かなりの長距離の陸路移動があったため、隊員は疲弊しましたが実災害での移動距離の確認、交通網の確認などができ実りのある訓練となりました。 [社会課長 中里 益夫]

密着取材!

医療ソーシャルワーカーの1日

～当院のスタッフの「とある1日」をご紹介します～



ヨシダ ホナミ
吉田 穂菜美

医療社会事業司/社会福祉課
(社会福祉士・精神保健福祉士)

医療ソーシャルワーカー(MSW: Medical Social Worker)とは…

医療機関において、患者さんやそのご家族の抱える心理的・経済的・社会的問題や不安の解消を図るため、社会福祉に関する知識を用いて支援・指導する専門職です。援助に徹するのではなく「自立できるように支援する」という方針で、社会福祉制度の利用方法や医療費の支払い方法の相談等をおこなっています。当院では現在、「社会福祉士」の国家資格を持つ職員4名が社会福祉課に所属し、MSWとして活動しています。

医療ソーシャルワーカー同士でカンファレンス

9:00～

前日に関わった患者さんのケースについて、各MSWが情報を出し合って援助方針を決定していきます。また、退院支援が必要な患者さんの情報共有も行います。



虐待疑い患者の対応協議

10:30～



外来・入院患者さんに虐待の疑いがみられた場合、虐待対策委員会事務局として委員長と今後の対応について話し合います。

電話で外部機関と連絡調整

11:00～

患者さんの退院後の生活を見据え、行政機関や医療・福祉施設だけでなく患者さんのケアマネージャー等と、電話で連絡調整や情報交換を行います。



認知症ケア部会に参加

16:00～

認知症ケアの質を高めることを目的に月に一度開催される部会では、認知症患者さんに関する院内事例を共有し、多職種で検討・話し合いを重ねます。



8:30～

退院支援が必要な患者さんのスクリーニング

退院支援が必要と思われる救急病棟に入院している患者さんを抽出します。当院は急性期病院であり、在院日数が限られているため、早期把握・介入が重要となります。

10:00～随時

患者家族との面談

患者さんやご家族から、年金制度や介護・医療保険の申請・利用方法等、社会福祉に関する幅広い内容の相談に乗っています。対面だけでなく、電話による相談もおこなっています。



12:00～

昼食休憩

お弁当を食べてひと休み。急な電話や面談の依頼があり、対応に追われることもあります。



14:00～

認知症ケアチームで回診

多職種で構成される認知症ケアチームの一員として、週に一度、入院中の認知症患者さんのもとへ赴き回診をおこないます。患者さんの身体的・心理的苦痛を軽減できるようなケアを提供することを心がけています。



所属長から見た吉田さん ～社会福祉課 永井課長より～

吉田さんについて簡単にご紹介いたします。

吉田さんは、ズバリ頭がよくて努力家です。辞書のように細かな虎の巻を自作しており、仕事は早くて正確です。社会福祉士国家資格を有していますが、昨年、新たに精神保健福祉士の国家資格を取得しました。仕事と家庭の両立に加えて更なる試験勉強は本当に大変だったと思います。性格は至って温和で、嫌な顔や怒った顔を一度も見ることがありません。普段は小声ですが笑う時は別で、100メートル先からも聞こえます。子育ての様子が思い浮かびます。これからは女性の活躍が求められる時代です。多くの職員から目標とされるような人材となっただけを期待いたします。



沖縄県への広域的支援に参加して

5階北病棟看護師 塚越 祐太

全国的に新型コロナウイルス感染者が急増し大変な状況の中、8月15日（月）～31日（水）まで厚生労働省からの依頼で沖縄県への広域的支援に参加してまいりました。日本赤十字社からは私を含め、計4名の赤十字病院の看護師が支援に来ていましたが、その他にも、国立病院機構関連施設や済生会系列病院からも多くの職員が参加していました。私の活動拠点は、病院ではなく、「入院待機ステーション」という施設で、入院加療が必要にもかかわらず、病院等が逼迫して自宅療養が難しい患者さんが入所し、治療や看護提供を受けていました。



▲塚越看護師（写真右から2番目）



▲酸素流量計の様子



▲プレハブ内に並べられるベッド

看護師の派遣期間は1か月と、2週間で分かれており、名札の色で区別されていました。私は2週間の勤務だったので、主に入所者の清潔ケアを中心にレッドゾーン（汚染区域）で勤務させていただきました。また日によって、受け持ち看護師としてバイタル測定や看護記録なども行っていました。沖縄の方言で話される入所者もあり、言葉の壁を感じる事もありましたが、沖縄本土出身の看護師や看護助手の方に助けられながら対応させていただきました。

また設備についても、病院とは異なり、プレハブにベッドを設置し運用している状況でした。そのため、酸素等も中央配管が無く、1病棟に設置された酸素流量計を各病棟へ延長チューブをつなげて酸素投与を行っていました。加えて、モニターも1病棟で一括管理しているため動線が悪い印象がありましたが、適宜、看護師・医師・コメディカルで協議し、改善点を見つけて業務を遂行しやすいように対応している点に感銘を受けました。

インシデント*も、転倒・転落や内服に関するものが多く発生していましたが、その都度カンファレンスを開き、対策を考え情報共有を行っていたため、件数もかなり減少していきました。

私は8月31日までの勤務の予定でしたが、8月の下旬にかけて非常に強い台風が沖縄本土に接近する予報があり、厚生労働省から通達が発出されたため、前倒しの形で埼玉に帰ってまいりました。

今回広域的支援に参加させていただき、全国各地から集結した医療従事者の協力体制がない限り、医療逼迫の軽減ができないという現実を目の当たりにしました。それと共に、災害級の感染症拡大が発生した場合には、医療従事者の感染対策の徹底や健康管理が重要であることを痛感いたしました。



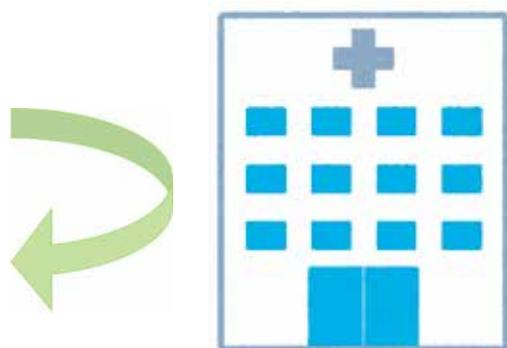
▲入院待機ステーションの外観

*インシデントとは…

誤った医療行為が実施される前に発見したもの、もしくは誤った医療行為がおこなわれたが、結果的に患者さんに影響を及ぼさなかった事例のこと。

地域医療連携だより

深谷赤十字病院は地域との医療連携に努めています。



当院は、初期診療や慢性の継続診療などは、「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行っており、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

毎号、医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介しています。

岩崎医院

住 所 〒366-0041 深谷市東方3688-5
電 話 048-572-8181
院 長 岩崎 晃
医 師 岩崎 晃太
診 療 科 消化器科、外科、内科
休 診 日 木曜日、土曜日午後、日曜、祝日
診 療 時 間 午前9時～12時 午後3時～6時



院長先生からのメッセージ

当院は1981年に開業し、地域のかかりつけ医として診療に携わってきました。

苦痛の少ない胃・大腸内視鏡検査を特徴とし、特にピロリ菌除菌に力を注いでいます。安心・安全な診療をモットーに幅広くきめ細やかな診療を心がけ、地域の皆様のお役に立てるよう尽力して参ります。

高間クリニック

住 所 〒369-1203 大里郡寄居町寄居671-3
電 話 048-581-0751
院 長 高間 晴之
診 療 科 内科、糖尿病内科、内分泌内科
休 診 日 日曜、祝日、木曜、土曜午後
診 療 時 間 午前9時～12時30分
午後2時30分～6時30分



院長先生からのメッセージ

当院は寄居町で糖尿病や内分泌疾患を中心に診療しているクリニックです。1型糖尿病、2型糖尿病、甲状腺疾患などの初期・継続的な診療を行なわせていただきます。診療所で対応困難な状態や各専門科の診療をお願いする場合などは、適切な医療連携に努めさせていただきます。

<地域の皆様へのご案内>

当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科 7,700 円・歯科 5,500 円）のご負担がなくなります。



さいとう小児科医院

住 所 〒360-0846 熊谷市拾六間788-34
電 話 048-532-5265 (予約専用電話)
院 長 齋藤 洪太
診 療 科 小児科
休 診 日 日曜、祝日、木曜、土曜午後
診 療 時 間 午前9時～12時 午後2時～5時



院長先生からのメッセージ

1981年秋に開院しました。今年で41年目となります。当時は小児科医不足のためにこのことが社会問題となっていました。現在は少子化が進みこのことも社会問題となっています。子供達の元気な声が聴こえると街は生きていますと感じます。子供達の健やかな成長をスタッフ一同願っています。

本庄早稲田クリニック

住 所 〒367-0030
本庄市早稲田の杜3-14-5
電 話 0495-71-8707
院 長 荻野 隆史
診 療 科 内科（循環器、消化器、呼吸器）、
外科、リハビリテーション科、救急科
休 診 日 日曜、祝日、木曜午後
診 療 時 間 午前8時30分～12時 午後3時～6時30分 ※土曜の午後は2時～5時



院長先生からのメッセージ

地域に根ざした医療、人に寄り添える医療を心がけています。また地域医療に貢献するためには病院、クリニックの連携のほか、看護・介護の関連機関、行政などとの包括的、効率的連携がよりよい医療、特にこのコロナ下には必要と考え微力ながら協力できればと考えています。

INFORMATION

令和4年10月1日から、国の制度見直しにより、紹介状を持たずに外来受診する患者等の「特別の料金」の額が引き上がりました。

初診時選定療養費

○ 紹介状を持参せずに受診された場合

2022年9月30日まで	2022年10月1日から
 医科 5,500円 (税込)	7,700円 (税込)
 歯科 3,300円 (税込)	5,500円 (税込)

再診時選定療養費

○ 状態が落ち着き、当院担当医が他の医療機関へ紹介を申し出た後も当院での診療を希望し、受診される場合

2022年9月30日まで	2022年10月1日から
 医科 2,750円 (税込)	3,300円 (税込)
 歯科 1,650円 (税込)	2,090円 (税込)

上記の改定に伴い、診療時間外（夜間や休日）の時間外選定療養費についても、令和4年10月1日から改定しました。

時間外選定療養費

○ 緊急やむを得ない場合を除き、時間内に受診して下さい。時間外受診を希望される患者さんには「時間外選定療養費」をお支払いいただきます。

2022年9月30日まで	2022年10月1日から
 5,500円 (税込)	7,700円 (税込)

医療機関の機能・役割に応じた適切な受診を行うようお願いします。
皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

深谷赤十字病院の理念と基本方針

理念

人道・博愛の赤十字精神のもと、地域の皆様の健康を守り、信頼される医療を提供します

- 基本方針**
- 1 医療人として生命倫理を最大限尊重します
 - 2 医療の質の向上に努めます
 - 3 患者中心の医療を行います
 - 4 地域との医療連携に努めます
 - 5 災害救護と国際活動に貢献します
 - 6 健全経営による働き甲斐のある病院を目指します

深谷赤十字病院臨床研修の理念と基本方針

理念

医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できる診療能力を身につける。

- 基本方針**
- 1 基本的診療能力の習得
臨床医として将来専門とする分野に関わらず必要な基本的診療能力を習得する。
 - 2 患者の立場に立った医療の実践
医師として患者から人間としても信頼される思いやりの心を持った謙虚な医療人となり、患者の立場に立った医療を実践する。
 - 3 チーム医療の実践
チーム医療の大切さを理解して病院内の他職種と連携を密にしてコミュニケーションを取りながら安全な医療を提供する。
 - 4 地域医療に貢献
地域の中核病院としての役割を理解し、地域医療に関心を持ち、地域医療の現場を経験する。
 - 5 赤十字病院の責務や理解
赤十字病院として公的病院の責務や災害時における医療救護活動を理解する。
 - 6 生涯学習の継続
質の高い医療を提供できるよう、生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を実践し、医療技術の習得に努める。また、後輩を育成することによって自らが学ぶ姿勢を有する。



深谷赤十字病院

日本赤十字社

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1
TEL 048-571-1511 (代)
<http://www.fukaya.jrc.or.jp/>

Vol.73 令和4年11月16日発行
編集発行：深谷赤十字病院
広報・公聴委員会